

学園創立の趣意

(建学の精神)

私立学校の存在意義

公立学校と異なり、教育の自主性が尊重されている私立学校では、学校創立者の教育理想が掲げられており、その実現を図る点に、私立学校の存在理由がある。

すなわち、公立学校は、教育に対する国家的要請と地域社会の要請に基づいて創立され、文部科学省やその他の機関の法制や方針に基づいた教育体制をしいている。

それに対して、私立学校は、創立者の教育理想の具現化、実践の場として創立され、独自の精神に基づいた力強い、特色のある教育を実践している。

そのため、私立学校では**建学の精神**が重要な意義を持つ。その建学の精神が、教育と指導の隅々にまで行き渡っていることが、私学の私学たるゆえんであり、特色である。

したがって、**建学の精神と教育方針の趣旨を正しく理解**することが、私学で学ぶ者にとって最も大切なことである。本学園の建学の精神は次のとおりである。

建学の精神

(昭和27年2月1日、学園創立時起草)

第二次世界大戦後における日本の経済文化の目覚ましい成長と発展により、わが国は戦前にまさるとも劣らない国となった。このことは、日本民族の英知と、勤勉な国民性を世界に示すものであり、わが日本民族の大いなる誇りと自信を回復する躍進といえる。

しかるにその反面、わが国民の一部においては民主主義の真意を誤り、自由をわがまま勝手と心得違いし、平等を無差別と誤解している者がいる。彼らは国家・社会や親の恩をわきまえず、自己のみあって他を顧みず、傍若無人の観さえも見受けられる。このことは、わが国の将来のためにも、国際的にも実に遺憾なことである。

このような一部の人々によるはき違えた民主主義、自由放任主義に毒された世相に流れる不心得な青少年の続出は、まことに憂うべき事態といわなければならない。

よりよい社会づくりのためには、日本人の英知と、勤勉な国民性の自覚を高揚し、父母と社会に対する報恩感謝の念を重んずる、よき社会人の育成こそが大切である。これは学校教育の責務と言えるのであり、本学園創設のゆえんである。・・・・

(原文の抄録)

いかに学ぶか

この建学の実現を図るために、本学園の教育は、社会に対する最終教育機関としての使命と責任を念頭においており、「**社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材**」の育成を目指している。

すなわち、特定の主義主張や思想に偏向することなく、健全で中正な社会観と堅実な人生観をもった、**周囲から愛され、信頼される人材**の育成を、教育の原点としている。

また、「**実力は努力から生まれる**」を教育信条としており、能率的な学習指導方法による知識と技術の体得に、指導の力点を置いている。

これらの教育実践によって、本学園の創立者であり、学園長である、水野恒治先生の「学校は、よき社会人をつくる場である」という基本的な教育理念の実現を図っている。

人間としての成長と発展、また成功を諸君が願うならば、人としてのあり方をも学ぶ修養の場として本学園をとらえ、本学園の教育精神に則して勉学し、努力することこそ最善の道である。

諸君は若く、無限の可能性を秘めている。大志を実現させるべく、自信を持って学んでほしい。